



installation view 1

二つの傾斜地で：空堀と竜ヶ迫

2022/1/26 - 2/12

+1 art, および+ 2 (大阪市)

画廊企画

On the two slopes:

Karahori and Tatsugasako

January 26 - February 12, 2022

+1 art, Osaka

+1 art を主宰する野口さん・カワラギさんが営む自遊学校のある高知の竜ヶ迫と、+1 art・+2 のある大阪の空堀は、共に傾斜に富んでいる。斜面は、そこに置かれるモノに高い位置エネルギーを与え、水平面にはない異質性と潜勢力をもたらす。

本展では、空堀と竜ヶ迫、二つの傾斜地に見いだされる多様なモノのありようのいくつかをトレースし、新たな共存（コンポジション com/position）に変換する。それを通じて、傾斜がはらむ造形的可能性の開示をめざす。斜めの海辺に空の堀が浮かび、傾いた空の堀に海が押し寄せる日を夢想しつつ。

(井上明彦) < DM に記したステートメント

(上写真 左)

《立て掛ける》

木、アクリル、墨、ジェッソ、番線、トタン

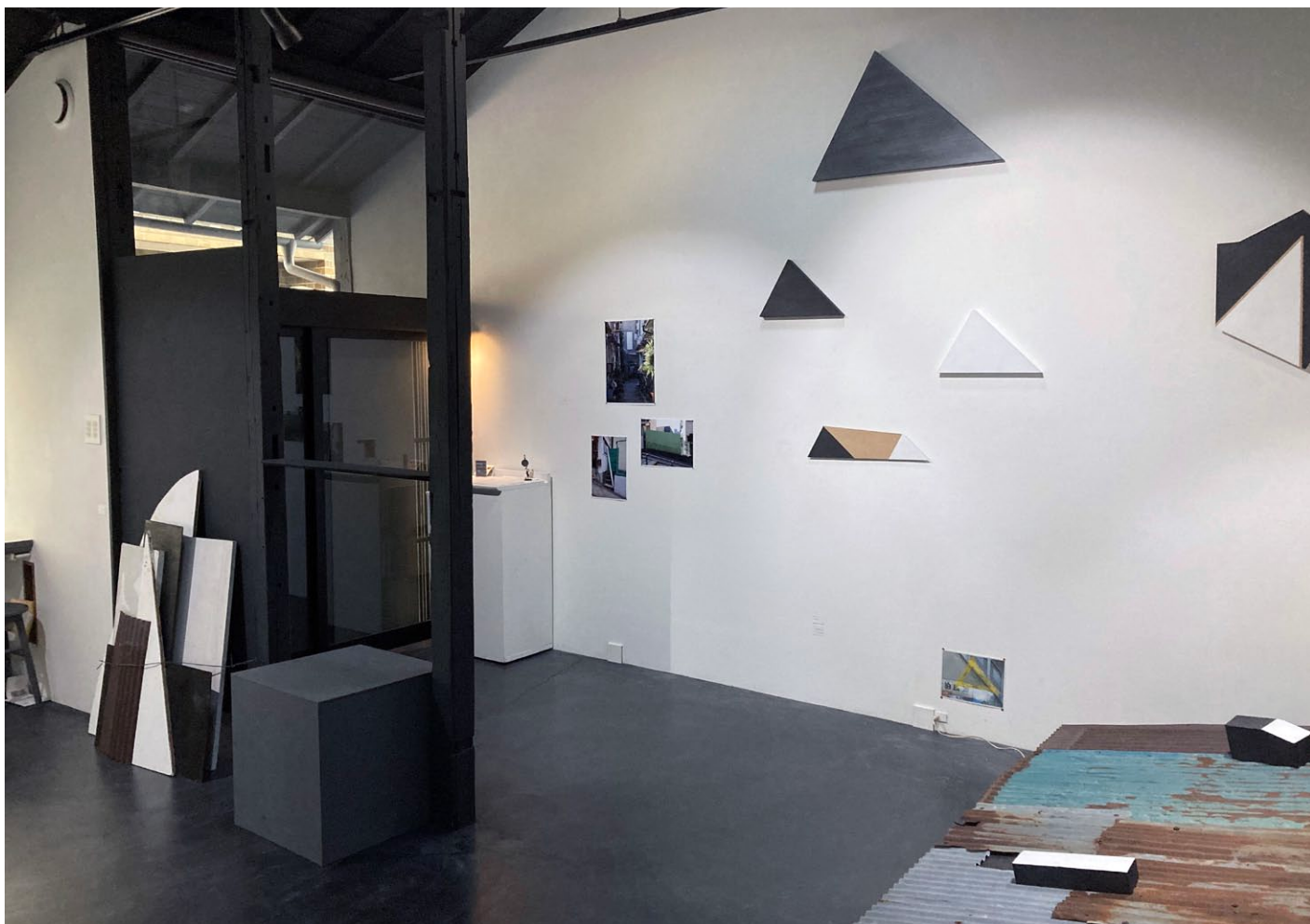
《Leaning》

wood, acrylic, indian ink, gesso, paint, galvanized iron, projector, DVD player, mirror sheet

(上写真 奥)

《空堀三角形 Karahori triangles》

《屋根の下は海 Sea under the roof》



installation view 2 : 《空堀三角形》ほか 《Karahori triangles》 and others



installation view 3 : 《屋根の下は海》(左)と《波打つ壁》(右)ほか 《Sea under the roof》《Waving wall》 and others



installation view 4 : 《波打つ壁》(奥)と《水路》および関連作品群 《Waving wall》《Waterway》and others



高知の自遊学校の状況をライブ配信するモニターの画面。画廊内に設置。

本展は、空堀にある二つの展示空間（+1 art と +2）と高知の自遊学校をつないで同時開催された。空堀のギャラリーと高知の自遊学校に、相似的な作品《ふたしかな屋根》をそれぞれ配し、無人となった校庭の状況は、web カメラを通じて、画廊内に配したモニターにライブ配信された。高知の海辺の光の変化や鳥たちの声が画廊内に小さく響く。

各部分は「作品」として相互に独立しつつ、内容や形態面で内的に関連し合う。単一のインスタレーションとして一体化するのではなく、外の風景ともつながった複合的な有機体として構成した。各部分および部分相互の連関は、空堀と竜ヶ迫という二つの傾斜地のフィールドワークから得た事象連関の構造や様相によって導かれる。

作品の参照源を具体的に示すのが、空間各所に挿入した写真である。展示の補遺として、会期中、空堀のまちなかで傾斜に関わる二つのワークショップを実施し、その結果もネット状に同時公開した。



起伏と傾斜の多い空堀のフィールドワークで見つけた特有の造形現象。作品のソースとなったそれらの写真をセレクトして展示し、ソースとその所産を混在させる。

《白い扉》 《White door》
 インクジェットプリント inkjet print
 430×328mm 430×328mm



《平行体》 《Parallel》
 インクジェットプリント inkjet print
 248×328mm 248×328mm



《白の斜線》 《White oblique line》
 インクジェットプリント inkjet print
 328×240mm 328×240mm



《空堀三角形》

6つのパートからなる作品群
木、ジェッソ、塗料、写真にコラージュ

Karahori triangles

6 parts on the wall
wood, gesso, paint and collage on photography

《空堀三角形 原型》空堀のフィールドワークで見つけた三角形。三角形はすべてこの相似形。



《屋根の下は海》

トタン、木、墨、ジェッソ、塗料、プロジェクター、DVD
プレイヤー、ミラーシート
1850×1350×500mm

《Sea under the roof》

galvanized iron, wood, indian ink, gesso, , paint,
projector, DVD player, mirror sheet
1800×1350×500mm

《海面になる練習》

映像 4'10"

《Exercise for being sea surface》

movie 4'30"

《ある傾斜 竜ヶ迫》

写真 (インクジェットプリント)
328×430mm

《an Inclination at Tatsugasako》

photograph (inkjet print)
328×430mm



屋根型立体に上がり、空けられた二つの穴
を通して、ひとつは映像作品《海面になる練
習》を、もうひとつは鏡に写る自分自身の眼
をのぞき見る。



Through a hole, one can see the movie
"Excercise for being sea surface" and
through another hole, one looks at
oneself in the mirror.





《海面になる練習》

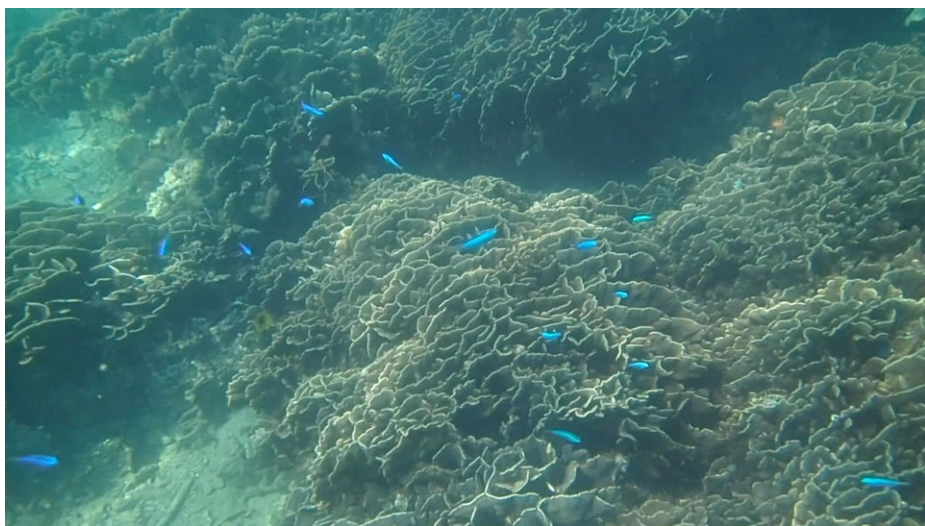
FHD 映像 4'10"

《Exercise for being sea surface》

FHD movie 4'30"

かつて竜ヶ迫に木彫の仁王像が流れ着いたとの逸話をふまえ、竜ヶ迫の海の波に自らのからだを委ね、岸边に打ち上げられるまで、波間を漂いながら海面を裏側から撮影する。





《海面になる練習》

FHD 映像 4'10" (スチル)

《Exercise for being sea surface》

FHD movie 4'30" (still)





《ある扉 竜ヶ迫》

インクジェットプリント
328×430mm

《A door at Tatsugasako》

inkjet print
328×430mm



《波打つ壁 空堀》

インクジェットプリント
328×430mm

《Waving wall at Karahori》

inkjet print
328×430mm

《屋根の下は海》と《波打つ壁》は、素材や映像の波打ちや黒い柱材の斜めの角度によって内的に対応しており、両者をつなぐ2点の写真作品の配置も、これらの相互関係に応じて決定されている。





《波打つ壁》

放射能汚染土壌用防水シートにアクリル、木
1800×1350mm

《Waving wall》

acrylique on tarpaulin for radioactive polluted soil, wood
1800×1350mm



installation view

《水路》

木、アクリル、マスキングテープ、トタン
3200×700mm

《Waterway》

wood, acrylic, tape, zinc coated steel
3200×700mm



《水路 空堀》

インクジェットプリント
248×328mm

《A Waterway at Karahori》

inkjet print
248×328mm



《水平を求める》

竜ヶ迫の海水、ガラス玉 2 個、黒柿、ジェッソ
130×230×125mm

《Looking for the horizon》

sea-water of Tatsugasako, 2 glass balls, wood of persimmon, gesso
130×230×125mm



《水路》

木、アクリル、トタン、マスキングテープ
750×3200×900mm

《Waterway》

wood, acrylic, tape, zinc coated steel
750×3200×900mm



《二つの流れ 空堀》

インクジェットプリント
328×430mm

《二つの流れ あるいは分水嶺 空堀》

インクジェットプリント
328×430mm

《Two stream of water at Karahori 1》

inkjet print
150×210mm

《Two stream of water at Karahori 2》

inkjet print
150×210mm

空堀では、水の流れを追うなかで多様で興味深い造形現象に遭遇する。
それらを通じて作品形成の regulation（規則）を探る。



《溝蓋 空堀》

木、墨
1320×400mm

《Gutter cover Karahori》

wood, ink
1320×400mm

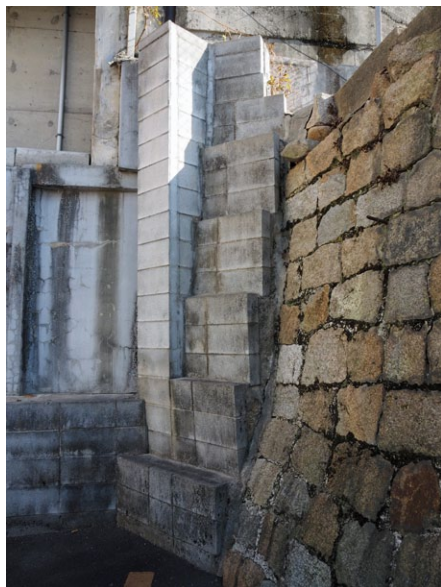


《KAN-NON-ZAKA 1》

wood, ink, gesso
545×230×130mm

《KAN-NON-ZAKA 2》

wood, ink, gesso
455×180×130mm



この2点の写真はファイル内に提示

《観音坂 1》

写真 (inkjet)
297×210mm



《観音坂 2》

写真 (inkjet)
297×210mm

《水のゆくえ》

木にアクリル
240×302×12mm

《Whereabout of water》

acrylique on wood
240×302×12mm



《白玉大明神》

写真 (inkjet)
210×297mm

ファイル内に提示



《ふたしかな屋根：斜陽1》

木、トタン、アクリル、コンテ
375×240×90mm

《Uncertain roof: slanted light 1》

wood, galvanized iron, acrylique, conté crayon
375×240×90mm

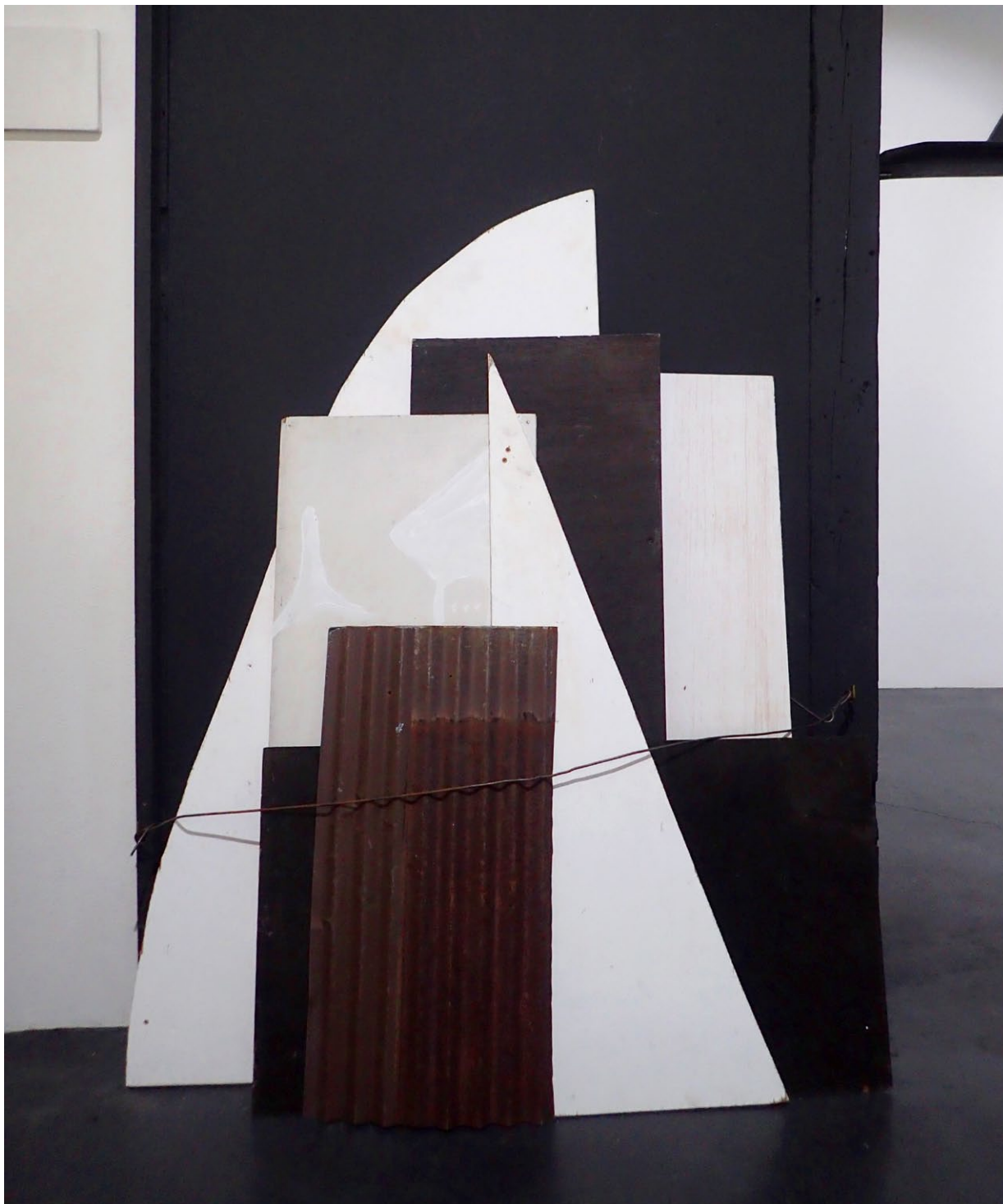


《ふたしかな屋根：斜陽2》

木、トタン、アクリル、コンテ
235×348×70mm

《Uncertain roof: slanted light 2》

wood, galvanized iron, acrylique, conté crayon
235×348×70mm



《立て掛ける》

木、番線、墨、アクリル、ジェッソ
1100×900×260mm

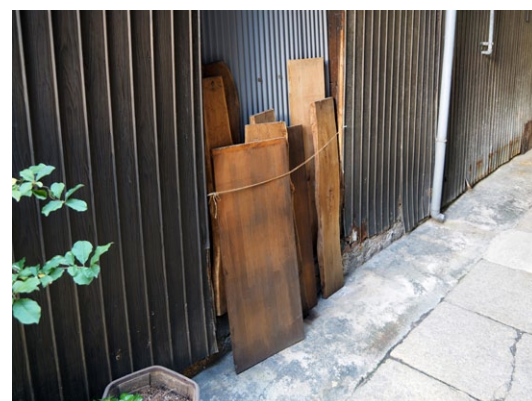
《Leaning》

wood, wire, ink, acrylique, gesso
1100×900×260mm

《立て掛ける 空堀》

写真 (inkjet)
210×297mm

ファイル内に提示





《たつがさこ》

LED テープライト、板
770×220×15mm
画廊入口に設置

《Tatsugasako》

LEDtape-light, wood
770×220×15mm
at the entrance of the gallery

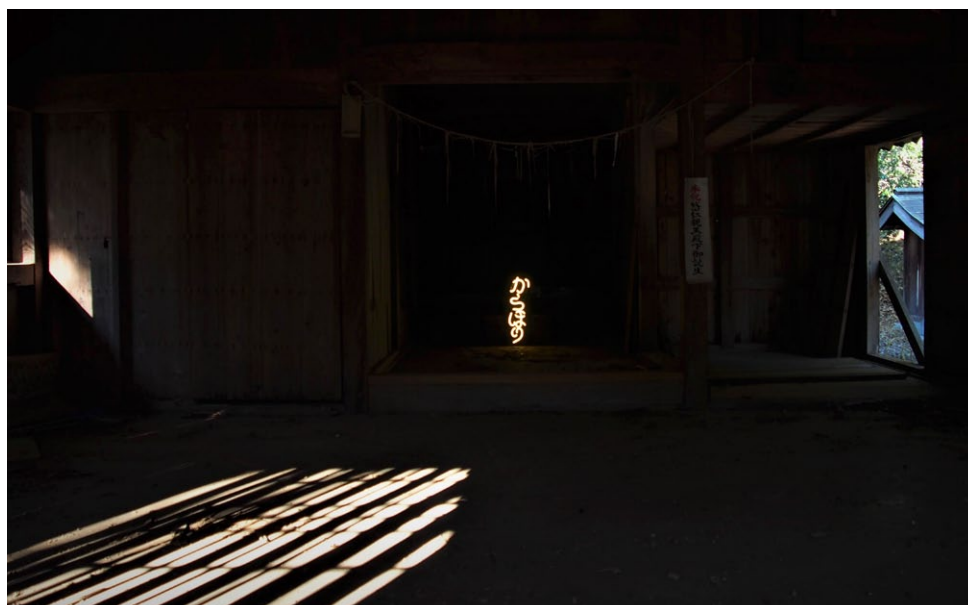
ネオンサインによって、二つの地名を交換する。
意味を音に還元し、音を光に変換する。

《からほり》

LED テープライト、板
700×220×15mm
竜ヶ迫天満宮（廃社）に設置
撮影：河原木憲彦

《Karahori》

LEDtape-light, wood
700×220×15mm
at Tatsugasako Shrine (abandoned)
Photo: Norihiko Kwaragi



以下 +2 に展示

《立て掛ける 2》

板、塗料
600×300×15mm
画廊 +2 入口に設置

《Leaning 2》

wood, paint
600×300×15mm
set at the entrance of Gallery +2



左 《空堀三角形》 《Karahori triangle》

木、ジェツソ、塗料
830×500×40mm
wood, gesso, paint
830×500×40m

奥 《からほり》 《Karahori》

LED テーブライト、板
700×220×15mm
部分的に隠れるように設置
LEDtape-light, wood
700×220×15mm
at the entrance of the gallery



《ふたしかな屋根：斜陽 3》

木、トタン、アクリル、コンテ
335×212×50mm

《Uncertain roof: slanted light 3》

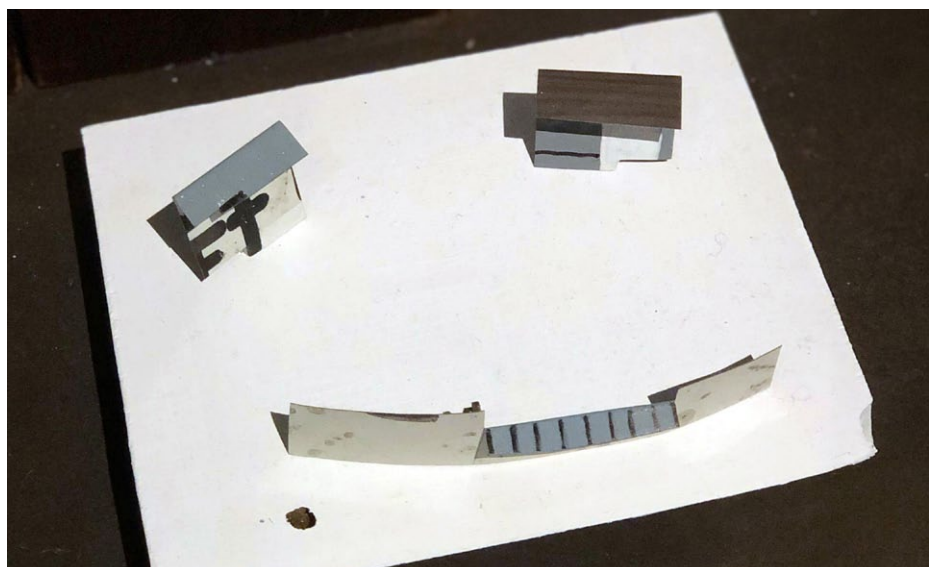
wood, galvanized iron, acrylique, conté
335×212×50mm

《ふたしかな屋根》

鉄、アクリル
35×35×20mm
40×30×20mm
25×120×20mm
2013

《Uncertain roof》

iron, acrylique
35×35×20mm
40×30×20mm
25×120×20mm
2013





左 《空堀三角形》

木、ジェッソ、塗料
600×300×15mm

《Karahori triangle》

wood, gesso, paint
600×300×15mm

手前 《ふたしかな屋根》《Uncertain roof》

鉄、アクリル
105×85×70mm
2013

iron, acrylique
105×85×70mm
2013

《二つの傾斜地にて》

木、アクリル、墨、コンテ
97×87×97mm

《On the two slopes》

wood, acrylique, ink, conté
97×87×97mm





《ふたしかな屋根》

木、トタン、土顔料、ニカワ、ジェッソ
240×365×160mm
2021

《Uncertain roof》

wood, galvanized iron, soil pigment, glue
240×365×160mm
2021



《ふたしかな屋根》

木、トタン、土顔料、ニカワ、ジェッソ
225×265×220mm
2021

《Uncertain roof》

wood, galvanized iron, soil pigment, glue
225×265×220mm
2021

Workshop / Performance

発想源となったまちのリサーチ結果に加え、傾斜に関わる二つのワークショップ/パフォーマンスをまちなかで行った成果を合わせて、ネット上に公開し、イデアの共有をはかった。
<https://onthetwoslopes.tumblr.com/>

「[1]「海水で空堀の地面の傾斜を測る」

2022年1月29日(土)

ガラスコップに入れた海水の水平面で地面の角度を測る。

「[2]「この坂の下は海」

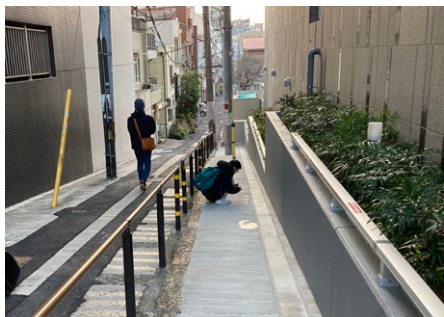
2022年2月12日(土)

空堀の斜面に高知竜ヶ迫の海水を流し、その流れを追いかける。

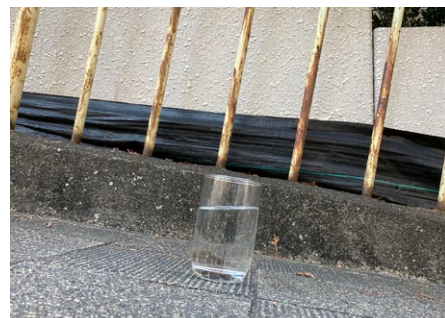
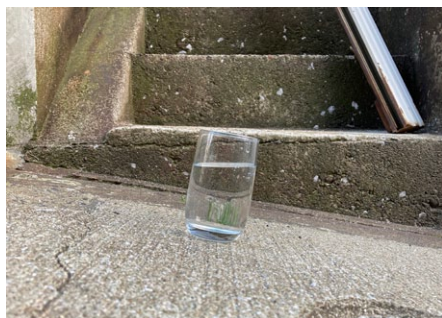
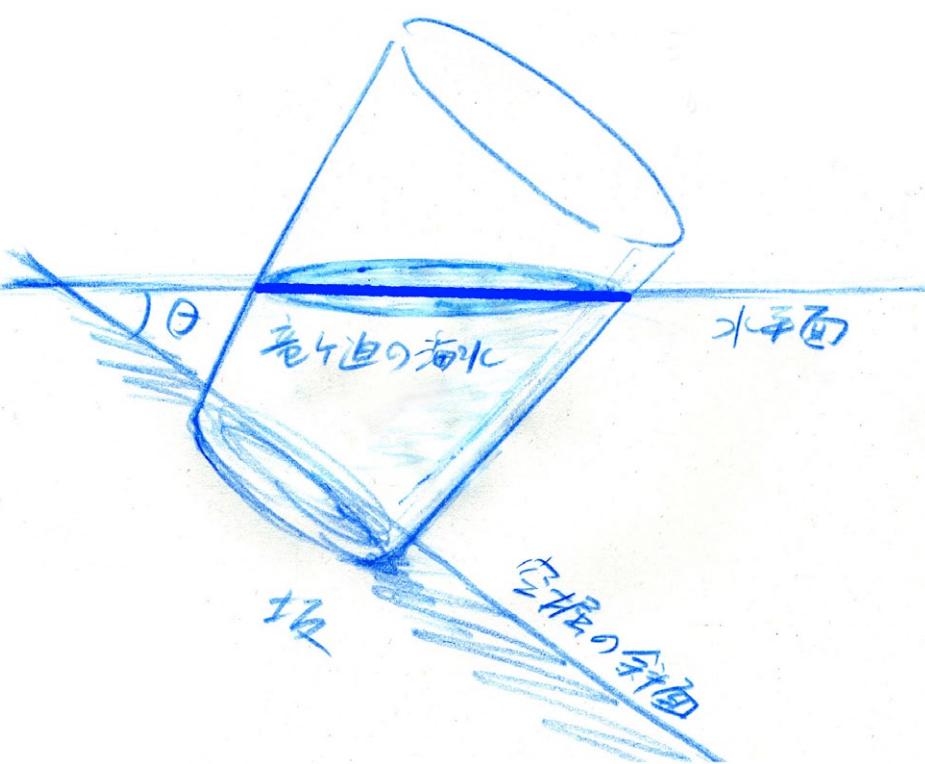
「[1]「海水で空堀の地面の傾斜を測る」

2022年1月29日(土)

- 1) 海水の入ったコップを地面に置く
- 2) コップの水面が楕円ではなく線になってカメラのフレームと平行になるようアングルを調整する
- 3) コップを置く場所の状況にも注意し、背景も含めて撮影する
- 4) 水面より下は海に沈んでいると想像してもよい。
- 5) 角度 θ はプリント後に測る。



コロナ禍のため、大々的にはできなかったが、空堀の起伏に富む複雑な地形をあらためて客観的に体感する貴重な機会となった。



[2] 「坂の下は海」

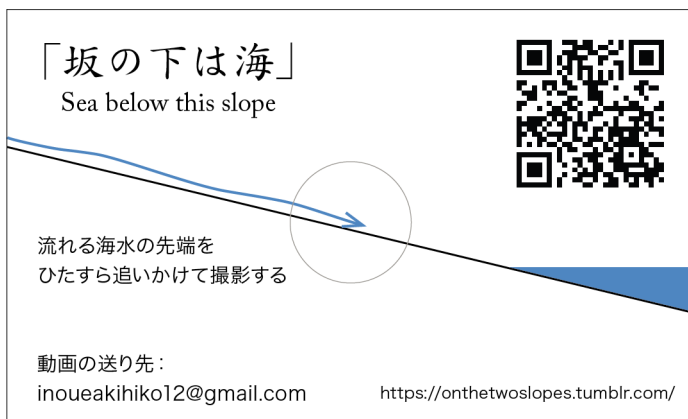
2022年2月12日(土)

空堀の斜面に高知竜ヶ迫の海水を流す。

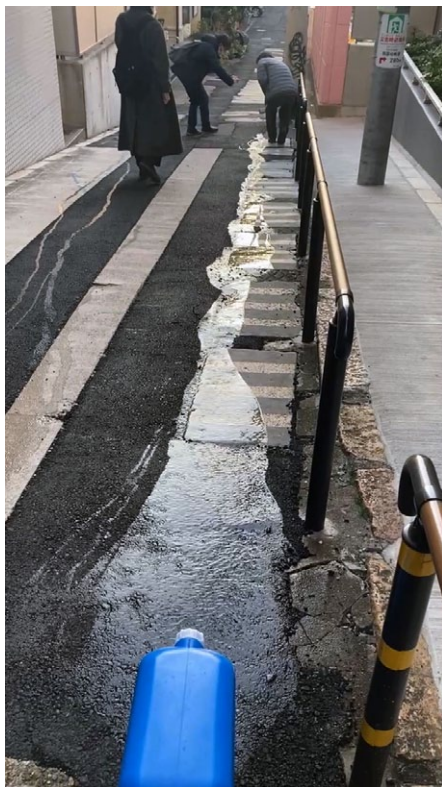
12万年前のように、予期せぬ未来に、谷町に海が押しよせるかもしれない。

遠近法的な視野を排し、先のわからない流れる水の先端を追跡する。

傾く大地に海水がつかのまのドローイングを描いていく。



12万年前、大阪は海だった。(大阪市自然史博物館より)



「二つの傾斜地で」 リサーチとワークショップ ドキュメントサイト（動画と写真多数。現在も公開中）

<https://onhetwoslopes.tumblr.com/>

On the two slopes 2022

Home
Research
workshop
Link
Ask
Submit
Archive
RSS

Email

傾きの可能性を探る「二つの傾斜地で」
漁獲サイト

撮影：山崎亨

Posted on: 14 2月 2022

Share Like Reblog workshop Sea below this slope 0 Notes

Posted on: 14 2月 2022

Share Like Reblog workshop Sea below this slope 0 Notes

撮影：山崎亨

Posted on: 14 2月 2022

Share Like Reblog workshop Sea below this slope 0 Notes

「坂の下は海」
Sea below this slope

流れる海水の先端を
ひたすら追いかけて撮影する

動画の送り先：
inoueakihiko12@gmail.com

<https://onhetwoslopes.tumblr.com/>

空欄では、持ち上げている事例に出会うこともたまにある。
これは谷町筋東側の空地で出合った事例だが、西側にもある。

空間の断面に足場丸太が林立し、建物を持ち上げている。
これも傾斜と起伏に重む空間ならではの光景だろう。

Posted on: 4 2月 2022

Share Like Reblog research 0 Notes

2022/2/12 16:59

海水を空欄の板に一直に流すパフォーマンス「坂の下は海」。

16時からと言っていたが、50分近く遅れて始まりました。
場所は谷町8丁目駅4番出口横の南向きの空欄。舗装路が美しい斜面です。何という
坂でしょうか？

※実行者（50歳）：井上明彦、大田高亮、岡本奈香子、北林敏子、はがみちこ、
山崎亨

→ INOUE Akihiko "On the two slopes: Karahori & Tatsugasaki" (2022/1/26~
2/12, +1 art, Osaka)

Posted on: 14 2月 2022

Share Like Reblog workshop Sea below this slope 0 Notes

白玉大明神もまた石垣が生む空間の切断面に位置する。

前の幅広い階段がこの場所の奇妙な家屋を示唆している。

橋移動が美しく、坂道《水のゆくえ》はこの模写である。

この補修跡も、さまざまな質感の地面の構成要素と美しいコンポジションをもち
あづけている。

套箱以前にすでに世界は美と驚異に満ちている。

Posted on: 4 2月 2022

Share Like Reblog research 0 Notes

空欄ではトタンが目立つ。

どこもトタンは美しいが、大きなイチョウの樹を押し切っていないこのトタンは
けなげである。

Posted on: 4 2月 2022

Share Like Reblog research 0 Notes

立て掛けるというモノの置き方。

これも仮設感に満ちている。

自道学校のまわりにも、使われなくなった戸板や窓枠があちこちに立てかけてあっ
た。